

令和6年度 日本大学鶴ヶ丘高等学校 自己評価票

〔本校の目指す学校像〕

日本大学の教育理念である「自主創造」を根幹に据え、校訓である「自主創造」・「真剣力行」・「和衷協同」の精神にのっとり、高校・大学の一貫教育の利点を生かしながら「文武両道の実践」・「規範意識の育成」・「多様な人々との対話と協働」を教育目標とし、主体的・協働的に学び・考え・道をひらく探究心豊かな生徒の育成を目指す。また、保護者・同窓生・地域との連携を図り、防災教育・エネルギー教育を基として安心・安全な教育環境整備を図る。

〔本校の特徴〕

日本大学生物資源科学部の併設校である。多様化する進学目標の達成を目指すため、コース別指導を徹底しており、生徒の第一志望実現に向けたきめの細かい学習指導・進路指導を行っている。規範意識の高い調和のとれた人間形成を目指し、勉学に加えて学校行事や課外活動にも全力で取り組む生徒を育成している。また、時代の変化に対応し、世界にはばたける人材育成のため海外語学研修の充実を図るとともに、探究活動を通して主体的に楽しく挑戦し、他者と協働しながら生きる力を育成する。

〔令和6年度の重点目標〕

教育活動については、「総合的な探究の時間」、「教科探究」を含め授業改善に向けて教科主任を中心としたマネジメント力を強化する。

学校生活への配慮については、いじめ防止のための取組みといじめの起こらない学校作りのため、学校生活アンケートを活用しながら学級担任や部活動顧問などが日常的に生徒に目を配り、いじめに向かわない生徒の育成を図る。また、将来社会人になっても通用するように挨拶の励行、時間厳守、交通マナーの徹底等、他者への配慮ができる規範意識を持った生徒の育成を目指す。

課外活動については、生徒が前面に出て主体的に考え動く場面をできるだけ増やすとともに、生徒会活動全般について生徒の様々な取組が見えるように、生徒会役員会を中心にして、方法を工夫しながら情報発信を多くする。

進路指導については、学力不足が原因で日本大学への進学を諦めることがないように更にサポートを行う。入試システムの理解を促し、実力試験や模擬試験等の結果と実際の基礎学力到達度テストとの相関関係を継続的に示すことにより、目標と自分の学力との乖離を常に意識させ、効率的で具体的な勉強をするように生徒の意識を高める。また、進路指導部の業務のスリム化を更に図り、教員の負担を減らしながらもミスの起きないシステムを構築する。

保健衛生については、「①感染症対策」、「②防災」、「③合理的配慮」を三つの重点項目とする。①は日頃から感染症に対応できる衛生観念と健康管理を啓発し、生徒の心身の健康と栄養バランスへの意識、生活リズムを確立する。②は災害時の傷病者対策や避難生活時の健康管理等を最重要課題として捉え、日頃の準備やシミュレーション（訓練）を積極的に行う。③は令和6年度から障がいのある生徒への合理的配慮の義務化が始まるため、理想的な教育環境の構築を目指し、生徒が安心・安全の下に学校生活を送ることができるように教職員全員できめ細かい配慮を行っていく。

図書については、「①図書館からの情報発信の拡充」、「②教員との連携による授業内容とリンクした資料紹介や展示作り」、「③探究活動に貢献できる図書館作り」の3点を重点目標としながら、学校生活の中で生徒が図書館を利用する習慣を育成する。

広報については、教職員に対して本校のブランディング・イメージの統一を図り、本校のアピール・ポイントを周知していくことを第一の目標とする。

管理運営に関しては、教員の働き方改革において、校務と部活動指導のバランスを図ることを目標とする。また、校舎建替えに向けての準備を進めるとともに、教育効果を高めるためのよ

り良い教育環境の整備に努める。

〔令和６年度の自己点検・評価結果〕

評価項目	取組目標（Plan）	取組状況（Do）	達成状況（Check）	令和７年度取組方策（Action）
教育活動	新学習指導要領を踏まえた上での授業・評価の改善	「総合的な探究の時間」については、全学年実施となり一応の完成に至った。基本となる内容の共通化と学年裁量の部分の明確化が課題となった。連絡会の定期開催については難しい部分があり、代替案の検討が急務である。「教科探究」については、教科主任を中心に各教科において教科会の活性化を促し、全体としては活性化しているが、まだ不十分な教科も存在する。 新評価規準については、問題点や改善点について意見が寄せられ、修正案策定に着手している。また、教育課程一部改定については、令和８年度を目指し教務部内では原案の作成に着手している。	B	「総合的な探究の時間」については、コロナ禍での制限がなくなったため、３年間の実施を踏まえて改善を行う。また、学年の壁を超えるノウハウの共有について策を早急に検討し、実行に移す。 「教科会」の活性化については、ＦＤ・学習指導委員会を中心に教科主任に働き掛けていく、ＦＤ・学習指導委員会自体も教科主任に対する研修の役割を果たすべく改革を進めていく。 「評価規準」については令和５年度までの問題点について集約し、令和８年度教育課程の一部改定と同時に実施を図りたい。 教育課程の一部改定については、カリキュラム検討委員会の開催を経て１０月までの策定を目指す。
	生徒による授業評価アンケート結果に基づく授業改善	授業評価アンケート結果の分析は個々の教員で実施している。授業相互参観は通年実施としたが、参観レポート提出率は低下している。 上記の項目と同様であるが、教科のマネジメントについては、教科間の差が大きいのが現状である。	B	上記の項目にあるようにＦＤ・学習指導委員会の活性化、各教科会の活性化等の充実を図る。教科主任のマネジメント力強化に向けて管理職と連携して指導・助言を行っていく。
	高大接続改革への対応	高大接続改革にのっとり新評価法の実施は全学年で行っている。また、それに伴う負担軽減策としてデジタル採点システムの導入が完了している。新教務システムによる指導要録・調査書の新様式への対応が完了している。	A	制度上の対応は達成済みであるが、煩雑になっている部分など運用で改善できる部分については逐次着手する。
	スクール・ポリシー（育成を目指す資質・能力に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針及び入学者の受け入れに関する方針）の策定及び公表	既に完了し、Web上で公表している。 あわせて、グランドデザインなどについても別ページで公表している。	A	スクール・ポリシー策定前にグランドデザインを策定したので、グランドデザインの見直し等について検討を行う。
学校生活への配慮	いじめ防止のための取組	いじめの起こらない学校作りとその維持のため、日常的に生徒を見守り指導することを重視し、いじめに向かわない生徒の育成を図った。	B	生徒への学校生活アンケートを年２回実施する。 学級担任や部活動顧問などが日常的に生徒の活動に目を配り、必要に応じて協力して指導に当たる。いじめ指導に関わる対応を可視化するため、マニュアルを作成する。

評価項目	取組目標（Plan）	取組状況（Do）	達成状況（Check）	令和7年度取組方策（Action）
	しつけ教育の徹底	挨拶を励行し頭髪や服装などの身だしなみを整え、責任ある行動を身につけられるよう指導した。	B	各学期始めの一斉指導と確認を行い、その後の日常指導を継続する。 生徒たち自らが危険を回避し、考えて行動できるよう指導を継続する。刺青や整形といった、身体に戻せない加工をする生徒への指導に重点を置く。
	マナー指導	登校時の交通誘導については教員の週番指導を継続した。また、生徒会とも相談し風紀委員会にも協力してもらった。	B	生徒自らが他者への配慮ある行動の必要性を理解し、互いの多様性を認めて、自身の言動を考えて行動することができるよう指導する。将来的に教員がいなくても自分たちでマナーを守り、週番を必要としない登下校を目指す。
課外活動	高校生に必要な視点を入れた行事作りと運営組織作り	役員会や実行委員会等に話し合いの機会を早めに作り、ロイロノートも活用してクラスの生徒の意見を募って企画運営に反映させることができた。	B	動き始めを早くして、生徒が考え動き、リーダーシップを取る機会を増やしていく。令和7年度鶴ヶ丘祭は令和6年度3学期、体育祭は令和7年度1学期末、三年生を送る会は令和7年度2学期末に動き始める。
進路指導	日本大学への進学者数増加に向けた取組	総進コースの生徒を対象に基礎学力到達度テストの模試を実施し、進学意欲の向上につなげた。 また、生徒・保護者を対象とした説明会などを通じて、付属推薦の内容やメリットについて丁寧に説明した。 さらに、学校推薦型選抜（付属高等学校等）特別選抜の希望者数調査では、実際に基準を満たす可能性のある希望者数を具体的に挙げることで、成果を得ることができた。	A	スタディサポートなどの結果を活用し、基礎学力到達度テストとの相関関係を示すことで、生徒に継続的に基礎学力到達度テストを意識させるよう努める。同時に、基礎学力の向上を図る。
	新成績処理システムの導入	実際の運用の中でいくつかの問題点が判明し、可能な範囲でその解決に努めた。	B	追跡調査ができる方策を検討していく。
	総進コースの一般選抜希望者への対応	学期ごとに各学年へ説明会の内容を周知徹底し、令和5年度以上に予備校の資料などを活用して実施している。 また、特進コースの生徒が受験する模試を、総進コースの希望者も受験できるようにした。	A	説明会の参加者数と模試の受験者数を検証する。
保健衛生	生徒の健康管理の徹底と感染症対策	諸行事が従来の形に戻りつつある中で、インフルエンザの流行をはじめ、なかなか感染状況はおさまらない。生徒への健康指導と感染対策の成果で、学校由来の感染は起きていない。	A	「感染症対策・防災・合理的配慮」をキーワードとし、必要に応じた保健指導は、養護教諭だけでなくクラス担任や部活動顧問、学年の担当教員や相談室とも連携して行っていく。学校内だけでなく、各家庭でも生徒の健康状態を把握してもらえるよう情報の共有を積極的に行う。生徒、教職員の健康意識の向上を図り、感染対策を徹底し、まん延させない環境の構築を目指す。
	カウンセラーと当該生徒に関わる教職員との連携	カウンセラー、相談室担当教諭、部活動顧問やクラス担任、学年の担当教員などの当該生徒にかかわる教職員が情報共有や意見交換を行い、連携を強化して対応した。来談ケースの中でも危険度の高い事案や長期にわたる可能性の高い事案は、定期的に管理職にも報告している。	A	「合理的配慮」をキーワードとし、カウンセラー、相談室担当教諭、クラス担任や学年の担当教員、部活動顧問など当該生徒にかかわる教職員と情報の共有と意見交換を行い、連携を強化して対応していく。

評価項目	取組目標（Plan）	取組状況（Do）	達成状況（Check）	令和7年度の取組方策（Action）
図書	授業で活用できる図書館作り	3学年では「3学期の授業」で活用、2学年では「修学旅行」で活用及び1学年「総合的探究」で活用した。	B	1・2学年に対しては、関係資料の展示等をより充実したものにしていく。3学年に対しては、令和6年度の状況を参考に令和7年度への対応を考える。新聞等を利用し、「問題発見」型の図書館にしていく。
	生徒の知的好奇心の喚起・育成	新着図書についての広報活動と既存書籍の紹介及び魅力的な館内展示の作成を行った。	B	既存の書籍については、図書委員に委員会活動の一環としてポップを作ってもらい、生徒目線での本の魅力を活用しつつ読書への意欲を高めてもらう配架・館内展示を工夫する。
	図書館利用促進のための情報発信	年3回の「図書館通信」及び図書館企画等のお知らせを配信した。見やすく探しやすい配架の工夫をした。	B	司書のアイデアで読書に親しんでもらうための企画を行っているが、今後も企画のバリエーションを増やしていく。書架の整理を継続し、より見やすく探しやすい配架にしていく。
広報	本校への多数回見学者数の増加	LINEの開設により、本校に興味がある人が分かり、ターゲット層に直接の働き掛けをした。	A	LINE等によるターゲット層へ告知の強度を上げていく工夫をする。ターゲット層として、LINEに関しては中学3年生とその保護者に向けていることを、学校内にも告知し、広報活動時には協力をしてもらう。
	12月見学者の増加	イベントだけではなく、見学者の受け入れが随時可能であることの周知徹底を目指した。	B	本校は「予約なしで学校見学が可能」であると周知をするとともに、説明会ではなく「相談ができる」ことを企図しているミニ説明会を工夫することで見学者が来校しやすい仕組みを考え、周知をしていく。
管理運営	仕事が一極集中しないような業務の分担と適材適所の人員配置の実施	分掌や部活動などの業務の平準化を目指して人員配置を行った。	B	平準化を目指したが、負担が集中する教員が一部いたため、個人で業務を遂行するという意識をなくさせ、チームで業務を遂行するように逐次指示する。
	「魅力ある学校作り」につながる組織としてのF Dの取組	校内全体で行う生活相談研修会と学外で実施されるF D研修の告知・取りまとめ・申込みを行った。	B	以前から行っていた研修は引き続き行うとともに、学外実施のF D研修に参加した教員の情報を共有するような中規模の研修会を開催する。
	財政基盤の強化及び計画的な施設・設備の改修	校舎や施設・設備等に係る中期的な整備計画に基づき、修繕・改修等を実施した。	B	事業計画に基づき、生徒の休みとなる長期休業中に効率的手法による改修工事を実施する。また、年度末に向けてより多くの積立金を確保する。

【令和6年度の自己点検・評価結果概要】

【教育活動】 「総合的な探究の時間」については、一応の完成に至った。全学年共通内容と学年裁量の部分の明確化が課題となった。「教科探究」については、教科主任を中心に各教科において教科会の活性化を促し、全体としては活性化しているが、まだ不十分な教科もある。教科のマネジメントについては、教科間の差が大きいのが現状である。 【学校生活への配慮】 いじめの起こらない学校作りとその維持のため、学級担任だけでなく部活動顧問とも連携し、日常的に生徒を見守り指導することを重視した。いじめにつながる兆候の早期発見のため、アンケートの実施時期を早めた。また、挨拶の励行や身だしなみなど、基本的な生活習慣を身につけさせる指導を実施した。登下校時の交通誘導は、教員だけでなく、風紀委員会の協力を得て行った。 【課外活動】 役員会や実行委員会等に話し合いの機会を早めに作り、ICT機器も活用してクラスの生徒の意見を募って企画運営に反映させることで、生徒が主体的に活動するとともに、情報発信の機

会も増やした。

【進路指導】

基礎学力到達度テストの模試や生徒と保護者対象の説明会などで、日本大学の進学者数が増えるようなサポートを行った。また、新成績処理システムの導入に伴う問題点が判明したが、可能な範囲で解決に努めた。

【保健衛生】

年末に都内のインフルエンザの患者報告数が警報基準を超えたが、指導や対策の成果が出ており、学校由来の感染は起きていない。防災については、防災対策委員会と連携し、訓練を行った。令和6年から義務化された障がいのある生徒に対する合理的配慮については、カウンセラーと相談室担当教諭を中心に、関係各所と情報共有することで、連携を強化した。危険度の高い事案や長期にわたる可能性の高い事案については、定期的に管理職にも報告している。

【図書】

年3回「図書館通信」を配信したり、図書館企画等のお知らせを配信したりすることで、図書館からの情報発信の拡充を図り、生徒が図書館を利用する習慣を育成した。また、各学年が使用する場面を想定し、探究活動に貢献できる図書館作りを実施した。

【広報】

本校への見学者数を増やすために、LINEを開設したり、行事だけでなく随時見学が可能なことを周知徹底したりした。

【管理運営】

分掌や部活動などの業務の平準化を目指して人材配置を行ったが、負担が集中する教員が一部いた。また、校舎建替えに向けた積立金を確保するとともに、校舎や施設・設備等に係る中期的な整備計画に基づき、修繕・改修等を実施した。

〔令和7年度の重点目標〕

【教育活動】

現行の学習指導要領は全学年への移行が完了したため、「総合的な探究の時間」や「評価規準」等、教育課程の改定を令和7年度中に実施し、令和8年度から開始できるようにする。教科主任のマネジメント力強化については、継続して行う。

【学校生活への配慮】

いじめに向かわない生徒の育成を継続するとともに、いじめが発生した場合に迅速に対応するため、マニュアルの改訂を行う。また、生徒自らが、他者への配慮や互いの多様性を認め、行動できるように指導する。

【課外活動】

生徒が考え動き、リーダーシップをとる機会を増やすために、行事の準備に着手する時期を早める。

【進路指導】

各種模試と基礎学力到達度テストとの相関を示し、テストに対する意識付けを強化し、併せて基礎学力の向上を目指す。また、生徒の多様化する進路実現のために分析を行い、効果の上

がる資料作りを行う。

【保健衛生】

令和7年度も引き続き「感染症対策・防災・合理的配慮」をキーワードとする。キーワード実現のために、保健衛生部とカウンセラーを中心に、関係教員や家庭とも情報を共有し連携を強化する。

【図書】

生徒目線と司書目線を並行させ、読書意欲を向上させるとともに、より見やすく探しやすい配架を目指す。また、新聞等を利用した「問題発見型」の図書館作りを行う。

【広報】

本校への見学者増加に対する取組を継続するとともに、学校「説明会」型から「相談会」型への移行を目指す。

【管理運営】

引き続き業務の平準化とスリム化に取り組み、「働き方改革」にできる限り添えるようにする。中規模の研修の機会を増やすことで、教員の資質向上を目指す。また、校舎建替えに向けての準備を進めるとともに、教育効果を高めるための教育環境の整備を中長期計画に基づき実施する。

以 上